不燃ごみの全量資源化について

1 目的

不燃ごみについては、現在、鉄やアルミニウムなど全体の約20.5%を資源化しているが、資源循環型社会の形成に寄与するほか、最終処分場の延命化を図るため、従来資源化の対象外としていたガラス片や陶器類なども含めた処理委託による全量資源化の取組みを進める。

2 令和5年度の不燃ごみ資源化状況

不燃ごみ 約4,605トン/年

委託による資源化（鉄・アルミ） 約 943トン/年（約20.5%）

不燃ごみとして清掃一組で処理 約3,662トン/年（約79.5%）

※ 清掃一組に持ち込まれた不燃ごみは、清掃一組の処理施設で残った鉄やアルミニウムを回収したうえで、最終処分場に埋立処理をしている。

経費（収集・運搬・選別等を含まない処理経費）

歳 出 約1億200万円

約1,500万円（資源化委託に要する経費）

約8,700万円（清掃一組での処理に要する負担金）

歳 入 約1,200万円（資源の売却益）

差し引き 約9,000万円

3 不燃ごみ全量資源化の取組み

(1) 概要

区で収集した不燃ごみの全量について、民間事業者に資源化を委託する。委託事業者において必要な分別等を行い、資源化を行う。

(例) 鉄・アルミニウム → 素材として売却

ガラス片や陶器類 → 細かく砕き、舗装材などとして再利用

(2) 経費（収集・運搬・選別等を含まない処理経費）

歳 出 約3億3,000万円（資源化委託に要する経費）

歳 入 0円（資源の売却益は委託事業者側で委託経費と相殺）

差し引き 約3億3,000万円（+2億4,000万円）

4 実施時期

現在の不燃ごみの資源化の契約が令和9年3月に満了することから、令和9年4月から実施する。